

露地入

## 〔南方録二〕客來時刻肝要之事

朝會は寅の下火にて客を待故夜明はなる、と其儘腰掛に來てもよし、され共石燈籠の内、又は數寄屋の内、かべ戸等の仕廻も有故、其程を考べき事勿論也、晝會夜會共に下火の心得して午の中刻、酉の中刻、座入するやうにすべしとかや、遲滯して火相のさわりに成様にするは、亭主に成て心づかひのものなり、さればとて考なしにはや過れば惡し、時刻肝要に心を用べきなり、

## 客腰掛待合案内を報する等の事

同道人相揃は、主の掛置たるにまかせ、版にても喚鐘にても柝にても打べし、數は三ツ可然、主の沓の音聞ば、立渡りて迎を待べし、

## 〔茶道織有傳上〕客入の大體

扱そと路次あけかけてある物也、その内まではぞうり取めしつれ入べし、此内に有せつゐんを下腹せつゐんと云、束杖を可置、扱腰かけ又は堂などあらば、こしをかけ相客を待合べし、客そろひなば、亭主出ざるうちに上客その外、その日の座配を云合、順をよくはなれど、になきやうにこしかけ居る事尤也、亭主出て禮する時、順よきため也、

## 〔南方録二〕亭主迎に出るの法

賓客腰掛に來り、看板のむねにまかせ、版を打て案内あらば、やがて帚を携へて迎に出べし、枝折戸猿戸杯は開て一禮し、紛巾を以て柱戸のさん杯掃ひて、帚にて其邊を清めて、戸を開たる儘にて立歸べし、中くゞりも同前也、戸口左右紛巾にてさら／＼と拭てよし、擧簀戸はつきあげの竿一本も又は二本もする也、所作かわる事なし、

## 〔茶之湯六宗匠傳記一〕千利休宗易居士自筆

一客來りてくゞりの前にやすらふ時、能時分をうかゞい、亭主くゞり戸をひらく、時宜を互にし